

あこがれの人目指し、インターハイ3位

黒沢尻工業高校ボクシング部3年

星 和也さん



全国高校総合体育大会(インターハイ)「2012北信越かがやき総体」は7月28日から8月20日まで行われました。ボクシング競技フライ級で3位になった星さんは「まだ実感がわかない。日ごろ練習してきたものを出すことはできたが、優勝を目指していたので満足できない結果。高校生最後の大会となる国体では必ず優勝したい」とリベンジを誓うと共に、「自分一人だけでの力ではなく、黒工や県内の先生などに支えてもらったおかげです」と感謝の気持ちも話していました。

ボクシングを始めたきっかけは、黒沢尻工業高校ボクシング部の先輩で、元WBAミニマム級世界チャンピオンの八重樫東選手。八重樫選手のインターハイや国体での活躍を知って、インターハイ優勝を目指し、入部しました。ボクシングは練習や減量がきつし、試合では殴られて痛い思いをすると話す星さん。それでも続けられるのは勝ったとき、今までの努力やそのつらさを乗り越えられたという喜びがあるからとのこと。

初めての全国大会だった今回のインターハイは、リングに上がったとき、今まで感じたことがないくらい緊張したと話していましたが、インターハイ前に行われたあこがれの八重樫選手の世界王者統一戦を見てモチベーションが上がって、いい状態でリングに上がることができたそうです。今後の目標は「4年後に行われるいわて国体で、岩手県選手として出場すること」と力強く話す星さんは、あこがれの人に今より近づき、今度自分が目標とされる選手になって活躍してくれることでしょう。

国際交流ルーム発



ハロー! まいふれんど ⑬ 小学校1年生が北上で異文化体験!

「北上市立小中学校体験入学」という制度をご存じでしょうか。これは外国の教育施設に在籍する児童・生徒が長期休業などを利用して日本に一時帰国した際、希望して市内の小中学校へ体験入学をするものです。今回はこの制度を利用して鬼柳小学校に体験入学したキャンベル・幸太郎くんを紹介します。

スコットランド、Musselburghのバラ小学校に在籍し8月からは2年生になる幸太郎君。日本の学齢ではまだ年長さんで、まもなく6歳になります。この体験から、日本では「挨拶」などがマッセルバラとは違って規律正しいと感じたそうです。今ごろはもっと涼しくなった(真夏の平均気温16℃)バラ小学校で、鬼柳小学校での体験談を仲間たちに話してい

ることでしょう。



鬼柳小学校に7月9日から20日まで体験入学した幸太郎くん(前列中央)と1年1組の児童

国際交流ルーム

電話・ファクス：63-4497  
電子メール：kiah@kitakami.ne.jp  
おでんせプラザぐろーぶ3階 生涯学習センター内  
開館日：毎週月-土曜日 午後1時-7時  
休館日：日曜・祝日、第3水曜日、年末年始



話題の本

中央図書館 ☎ 63-3359  
中央図書館のホームページ

江釣子図書館 ☎ 77-2215  
http://www.library-kitakami.jp/

和賀図書館 ☎ 72-2322

### 《8月の新着本から》

- ▼ 一般書
  - 秘密のロンドン 入江 敦彦
  - 子育てハッピーアドバイスようこそ初孫の巻 明橋 大二
  - 冥土めぐり 吉崎 達郎
  - 夢より短い旅の果て 鹿島田 真希
  - 世界が土曜の夜の夢なら 斎藤 環
- ▼ 児童書
  - 津波をこえたひまわりさん 今関 信子
  - 少年野球基本とレベルアップ練習法 前田 幸長 監修
  - タマゴイスにのり 井上 洋介
  - ゆうれいとどろぼう せな けいこ
  - 暮らしに生かされている宇宙技術の大研究 山崎 直子 監修

### 《おすすめ新着本》

『ふるさと文学さんぽ 岩手』



須藤 宏明/監修  
大和書房

石川啄木「一握の砂」、  
宮沢賢治「小岩井農場」、  
馬場あき子「鬼剣舞の夜」など、岩手にちなんだ22作品が解説付きで収録されています。

『グスコープドリの伝記 アニメ版』



宮沢 賢治/原作  
杉井 ギサブロー/監督  
ますむら ひろし/原案  
理論社

冷害のために家族を失ったドリ少年は、さまざまな人たちと出会い学びながら成長します。2012年7月に公開した映画の書籍版です。

### 《9月のイベント情報》

#### ■おはなし会

- 9月9日(日) 午前11時~11時30分 中央図書館
- 9月16日(日) 午前11時~11時30分 和賀図書館

#### ■こども映画会

- 9月22日(土) 午前10時30分~11時30分 中央図書館

#### 震災津波と和賀川の鮎

北上みちのく芸能まつりが、今年も晴天続きの暑いで開催された。沿岸被災地からは多くの虎舞団体が参加し、浜っ子の復興に向けた心意気に感動した皆さんも多かったことだろう。

実はあまり知られていないのかもしれないが、毎年このまつりと同時にトヨタカップ鮎トーナメントが和賀川を舞台に開催されている。今年も8月4・5日の両日にわたって第10回大会が開催され、全国から約200人の名人が集

合。なんと優勝者には車1台が副賞として提供されている。主催者は岩手県内のトヨタグループで構成されている「岩手県トヨタ九社会」で、会長の元持勝利岩手県商工会議所会頭が大会会長を務めている。この大会の名誉会長はつり人社の鈴木康友社長が務め



ているが、鈴木社長いわく「今年の釣果はいまだかつてないもので、この10年で最高だった」とのこと。この現象は太平洋側特有のもので、昨年の東日本大震災津波の影響ではないかと考えている。現在の海の状況は、大津波に洗われたことで岸に近いエリアで昆布が大量に繁茂し、小魚の絶好の隠れ場所になっている。そのような場所ではか育たない鮎の稚魚が、今年大量に遡上しているとのことである。予選が3時間、準決勝、決勝では2時間の釣果を競う大会だが、予選トップが29尾、準決勝、決勝では20尾と入れ食い状態だったようだ。

昨年の津波は私たちに大きな災害をもたらした一方で、長年の間に汚してきた川や海を浄化し、再び大きな恵みを届けてくれているようだ。自然の営みの不思議さをあらためて感じさせてくれたような気がする。鈴木社長のお話は、「ここ数年は、鮎の豊漁が続くのではないか」とのこと。腕に覚えのある人は来年のトヨタカップ鮎トーナメントにぜひ挑戦されてはいかがか。